

CHINA CAMP 2018 SPRING REPORT



FWC九州
kyushu



YUYA YUKI

SHIBATA

YUTA MASAMI

目次

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 目次・巻頭言 p 1 | 6. キャンプについて p 7 |
| 2. FIWC のチャイナキャンプとは
FIWC とは p 2 | 7. 各係から p 15 |
| 3. JIA とは p 3 | 8. 他己紹介 p 20 |
| 4. ワークキャンプとは p 4 | 9. 感想 p 24 |
| 5. スケジュール p 5 | おまけ 簡単！中国語講座！
各ページの下部に載せています。
北京語…（北） 広東語…（広） |

私たちは、言葉すら伝わらない中国のハンセン病快復村で 何ができるのだろう

インフラ整備、生活のお手伝いは確かに村人たちのためにできること
だけど、村人たちはある程度今の村の環境に満足しているようだ
「では、村人が私たちに求めているものって何だろう？」

村人から返ってきた答えは「あなたたちが来てくれるだけで嬉しい。」

求められているのは 私たち自身 だった

私たちがこのチャイナキャンプで大切にしたのは

村人と共に過ごす時間

それぞれの思うコミュニケーションで、心をかよわせる
笑いあったり、一緒に涙を流したり
そういう時間が積み重なって

私たちがこのチャイナキャンプで成し遂げたことは形がなくてわかりづらい
ただ、私たちが村を去る時に村人もキャンパーもみんなが流していた涙は

村人の心に、そして私たちの心に 何か残すことができたという証だ

FIWC のチャイナキャンプとは

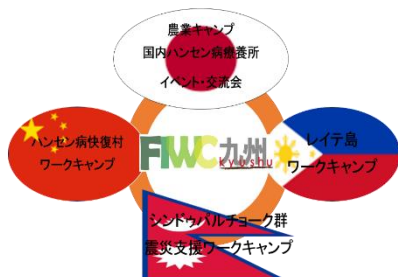
私たちは、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む「ハンセン病快復村」でキャンプを行います。村人はハンセン病が完治しているにもかかわらず、後遺症や周囲からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。チャイナキャンプでは、村の家屋の一室を借りて村人と生活を共にしながら4つのことを行っています。

- ・村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト
- ・後遺症により掃除や洗濯などの日常生活が困難な村人の手伝いをするワーク
- ・周囲の町や村に対してハンセン病に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動
- ・村人と楽しい時間を共有するためのパーティ
- ・村や村人についての記録プロジェクト



私たちは、現地の NGO 団体「家 JIA」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行います。

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camp) の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団 (AFSC) がワークキャンプを日本で実施しました。そして、1950 年代に AFSC から独立し、FIWC が結成されました。私たち FIWC の「フレンズ」はその精神を受け継ごうという意思から採用されました。それ以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施しています。現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動して



います。私たち九州委員会は九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしており、国外ではフィリピン、中国、ネパール、国内では耶馬溪の農業キャンプや国立ハンセン病療養所などを中心に活動してきています。私たち FIWC は、一般市民・学生による任意の非政府組織 (NGO) であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体です。

JIA とは

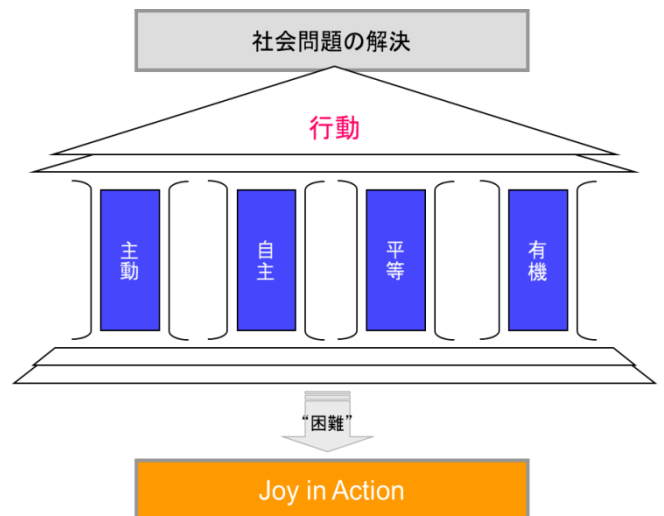
私たちが中国でワークキャンプを開催するにあたって、必要不可欠なのが JIA の存在です。JIA は原田燎太郎さん(タイランさん)らによって設立された NGO です。JIA のワークキャンプは中国にあるハンセン病快復村 68 か所、村周辺の 19 か所で行われました。ワークキャンプでは、インフラ整備やハンセン病に対する差別をなくし、理解を深めるためのプロモーション活動などのプロジェクトを行っています。また、JIA は現地の生活及び社会環境を改善すると同時に、その体験を通して若者たちの成長を促進し、将来社会に貢献できる人材の育成を担っています。

JIA には 8 つの地区委員会が存在します。各地区の大学生を中心としたボランティアが自主的に活動を運営します。大学卒業後も Back up team というものを組織してサポートを行います。私たちは 8 つの地区の中の広州地区とワークキャンプを行いました。



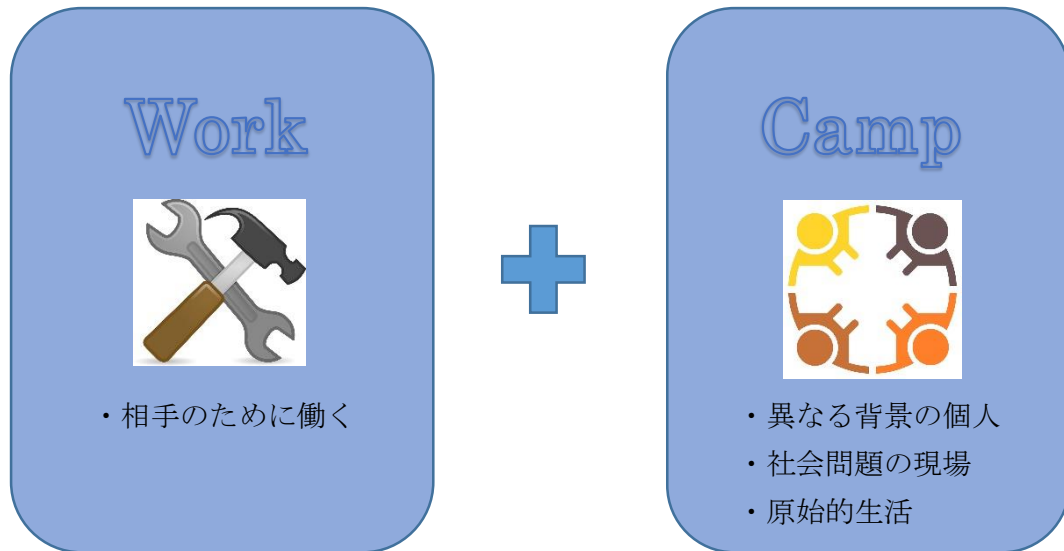
JIA の理念 : Joy In Action

社会問題に取り組む際、議論ばかりをするのではなく実際に現場で、現地の人と生活し互いの違いを認め尊重し合うことでツナガリを生み、人と人との隔たりを埋めていく。その過程の先にあるものが Joy In Action である。



ワークキャンプとは

ワークキャンプは work と camp を組み合わせてできた言葉です。



ワークキャンプはボランティア活動の1つで外から支援するのではなく実際に現地に行って現地の人々と同じように生活する中で交流し、ワークを行っていきます。

〈JIA のワークキャンプ〉

JIA のワークキャンプでは 20~30 名ほどのキャンパーがハンセン病快復村を訪れ、インフラ整備、村や村人の家の掃除、村人との交流を行いました。期間はおよそ一週間から三週間行います。ワークキャンプをしていくなかで、一緒にご飯を食べたり、飲んだり、語ったり、汗を流しながらワークをすることでキャンパーと村人との間にツナガリが生まれるのです。

また JIA では村周辺の小学校でも活動を行っています。



<キャンプ後スケジュール>

- 3/6 (木) 第1回事後ミーティング@広州
- 4/10 (火) 第2回事後ミーティング@びおとーぷ
- 4/17 (火) 第3回事後ミーティング@びおとーぷ
- 4/21 (土) 報告会

<キャンプ中のスケジュール>

時間	内容
7:00	起床
7:20	集合
7:20~7:55	キャンプダンス練習
8:00~8:30	朝食
8:45~11:45	プロジェクト
12:00~12:30	昼食

こたろうのベストショット

儒洞村に住む子犬、こたろう。(勝手に名付けました！)

人懐っこくてかわいいこたろうの魅力をちょっとばかりご紹介！！



キャンプについて

【Re: 】

これが今回のキャンプテーマです。

Reには接頭語として再び、さらに、新たな、などの意味が含まれています。

私たちはみな夏以来の二回目のキャンプだったので、各々に村人との再会、さらに深い関係を築く、新たな出会いを大切に、繋がりを続けていくといった思いがありました。

Return や Restart など Re:の後ろの空白に補うことでそれぞれが持つこの思いを表現できるテーマとなっています！

ワークキャンプ in 儒洞村

今回は昨夏と同じ儒洞村（ルードン村）に7日間滞在しました。

20人ほどが住んでいて、水、電気は通っている比較的に環境が整った村です。

まさみ以外の4人は二度目の訪問でした。

それでは、キャンプで行った各活動の内容を紹介していきます！

・日程 3/4～5

・参加者

日本人キャンパー 5名

中国人キャンパー 17名



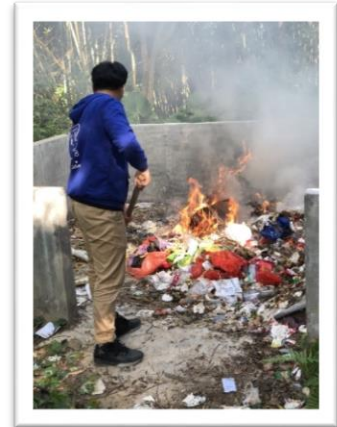
・活動内容

1. ビッグクリーニング（大掃除）
2. インフラ整備
3. ホームビジット
4. 春聯（しゅんれん）& ランタン作り
5. Tea party
6. Big meal



ビッグクリーニング（大掃除）

村にはゴミを大量にまとめる場所があるにもかかわらず、ゴミ箱を使うという習慣がなく、村人たちは窓からゴミを捨ててしまうため、ゴミが溜まってしまっていました。そこで、私たちが掃除をし、一部は焼却、残りは行政に依頼してゴミを回収してもらいました。



みんな一生懸命に清掃中！



きれいになりました！！！！

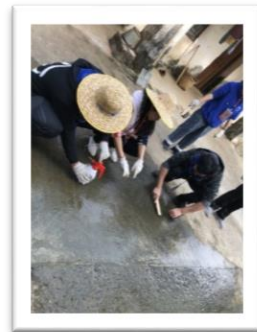
また、村人のお部屋の掃除、洗濯も行いました。とても喜んでくれたのでうれしかったです！



インフラ整備

村にある水道の蛇口付近には、こけが生えてしまっていて、とても滑りやすく危険でした。

こけを除去して水が流れる用水路を作ることでこけが生えにくくようにしました。



ホームビジット

ホームビジットとは、2、3人のグループに分かれて村人のお宅を訪問して交流をする時間のことです。この活動が、チャイナキャンプの醍醐味といっても過言ではありません！

お菓子を食べながらテレビを見たり、おじいちゃんおばあちゃんの過去のお話を聞いたり、人生相談や恋愛相談をしたりなど、楽しい時間もあれば、ハンセン病になってしまって辛かった思い出を聞くこともありました。しかし、私たちがそれらの話を心から受け止めることで、より一層村人とつながれる、とても大切な時間でした。



春聯&ランタン作り

日本では、1月1日が元旦でお祝いをしますが、中国では、旧暦の1月1日である春節でお祝いをします。今年は2月16日でした。春節の習慣として、春聯（しゅんれん）という門や入り口などに飾られる対になったおめでたいことばやランタンがあります。それらを手作りし、村人にプレゼントしました。



Tea party

Tea party とは、村人全員を招待して甘い豆スープを食べながらいろんなパフォーマンスを楽しむイベントです。演目ごとに紹介します。



劇

中国の昔話“元宵節の伝説”の劇をしました！

村人は広東語を話すので、みんな広東語のセリフを覚えて演じました！



あらすじ

むかしむかし、猛獣がいたる所で人間や家畜に被害をもたらしていました

。そこで人々は決起し猛獣を退治しました。そこへ天界のお姫様の鳥がさまよい、人間の住む世界へ落ちてきました。これを知らない獵師は誤って撃ち落としてしまいました。

神様がそれを知るとカンカンに怒り、家来に正月十五日、人間界へ行き火をつけ人間世界を焼き払うように命じました。お姫様は心優しく人間たちをかわいそうに思い、このことを伝えると、人々は驚き慌てふためきました。そこに、あるお爺さんが表れて、、、、

気になった方、続きは **WEB** でけんさくけんさく～！！

福笑い

日本の正月文化を知ってもらいたかったので、お正月遊びの定番、福笑いをしました。

顔は私たちキャンパーで、立候補してくれたおじいちゃんおばあちゃんが挑戦しました。

とても盛り上がって楽しかったです！



ランタンなぞなぞ

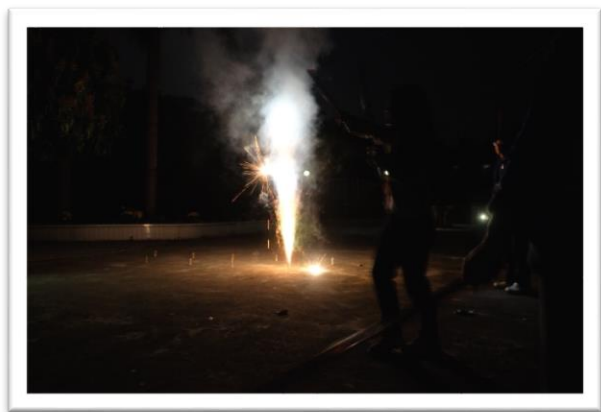
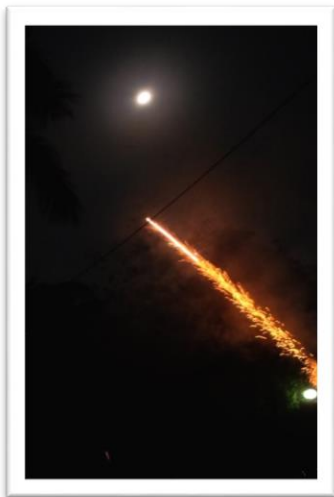
上で説明したランタンには村人の特徴がかかれた紙がぶら下がっていて、それがいったい誰について書かれているのかをみんなで当てるなぞなぞをしました。



Question → Answer

お祝いの花火

旧正月のお祝いの花火と爆竹を楽しみました。



Big meal

Big meal とは、村人と大広間で一緒にご飯を食べるイベントです。

日本人からはおせちの定番である昆布巻きを作りました。

昆布巻きは不老長寿かなり好評で大成功でした。

一緒に食事することで、また一段と心が近くなったように感じました。



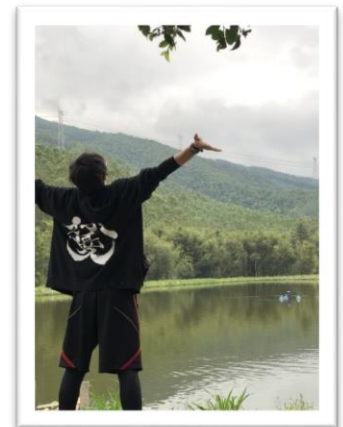
食後には、日本の年賀状を村人全員にプレゼントしました。



高明村ビジット

儒洞村キャンプが終わった後、私たちは同じ広東省にある高明（ガオミン）村で一泊二日のビジットを行いました。短期間だったので、イベントは行わず、村人との交流を楽しみました。

- ・日程 3 / 4～5
- ・参加者
日本人キャンパー 5名
中国人キャンパー 10名



高明村について

高明村は広州の JIA オフィスから車で約2時間ほどで着きます。村には最も多いときで500名ほどの村人が住んでいましたが、現在は50名ほどが暮らしています。



各係から

GL ジェネラルリーダー (ゆうき)

<仕事内容>

キャンプ前

* 中国人キャンパーと連絡を取り、情報を発信する。
* 各リーダーの仕事が滞りなく進んでいるか把握しておく。

* 交通手段などの手配

* ミーティング、全体の準備のコーディネート

キャンプ中

* ミーティングの主催・コーディネート

* 各リーダーと積極的にコミュニケーションをとり、各リーダーの仕事に協力する。

* キャンプ全体の進行を把握し、キャンプ中に発生した問題を処理する。

<総括>

* キャンプ前にもっと各リーダーがうまくチャイニーズキャンパーと連携がとれているか確認すべきでした。

* 日本人全体からとしての意見をチャイニーズキャンパーに積極的に伝え、キャンプに反映させることができました。



RL レコーディングリーダー (まさみ)

<仕事内容>

* 普段の生活やワーク、プロジェクトの様子を写真や動画に収める

* キャンプ後動画を作成 (スケジュールの都合上、中国人の EL が作成は行う)

<総括>

キャンプ前に中国人との連絡がうまくいっておらず、自分が出国までにすべきことの把握ができていませんでした。

→英語できちんと説明するようにやってくれるまで粘り強くお願いすること。

今回は日本人が RL をするのが初めてだったが、次回以降 RL をするならば前担当者から直接引き継ぎを行うべきだと思います。

KP キッチンポリス (ゆうや)

<仕事内容>

- * キャンパーの食事管理
- * 毎日の料理のシフト作成
- * 食材、キッチンの管理
- * 食材の買い出し



<総括>

* JIA と日本人の KP の仕事内容の把握にずれがあった。

今回のキャンプで JIA の KP が初めてだったため、自分が把握している KP の仕事内容と向こうが理解している KP の仕事内容にズレがありお互いに認識するまでに時間がかかりました。これにより村に到着して仕事内容を理解することが多くバタバタしてしまいました。

* Big Meal で提供する日本食の情報を JIA に共有していなかった。

今回 Big Meal で提供したのは昆布巻きです。理由としては、中国は旧正月で日本のおせち料理を提供しようということと、また昆布巻きには長寿祈願という意味もあるためです。

結果として、村人も「おいしい」と言って食べてくれましたが、昆布巻きの情報を JIA の KP に共有しておらず中国についてから昆布巻きについて一から説明しなければならなかったことになってしまいました。情報を共有しなかった理由は、昆布巻きの材料は日本で調達できるため共有を必要がないと判断してしまったことです。



我々日本人キャンパーがこの春キャンプで行ける村の選択肢としては儒洞村とテンチャオ村という二つがあり、Big Meal の時に村人の家族を招待するイベントがあり今までにない試みであったので儒洞村に行くことに決めました。

しかし家族が忙しかったり上手く家族の方と連絡が取れなかったりしたためあまり村人

の家族を招待できませんでした。

そして、Visit の際に村人に家族が来られるかを聞く担当が HL か KP はっきりせずどちらが担当なのかあやふやなままにしまいました。

*JIA の KP と細かい情報まで共有出来ていなかった。

前回のキャンプでも同様にコミュニケーションが取れていませんでしたが、今回はもう少し細かい情報まで共有をするべきでした。

EL イベントリーダー (ゆうた)

<仕事内容>

キャンプ前

*キャンプソング、キャンプダンスを決定

*キャンプダンスを覚える

*tea party の準備

*レクリエーションの準備

キャンプ中

*キャンプダンスの指導

*レクリエーションの運営

*night talk の準備

*ランタン、春聯作り

*キャンパー、村人を楽しませる



➤キャンプダンス

キャンプ前にキャンプダンスを中国人と一緒に決めて覚えます。キャンプ中は毎朝覚えたダンスをキャンパーに教えます。一日の始まりはダンスの練習からです。みんなが元気に一日を過ごせるようにダンスを教えました。



➤レクリエーション

キャンプ前に様々なレクリエーションを考え、キャンプ中の昼休み後とミーティング後に行いました。レクリエーションはキャンパー同士が仲良くなるために行います。小さいときに行っていた遊びが案外楽しかったりします。

➤night talk

一日の最後にビールやお菓子などを食べながらみんなで語らう時間があります。その時

にビールなどの準備や話題などを考えました。学校の話や恋バナ、キャンプについてなど様々な話をして仲を深めました。

➤tea party

劇や歌や日本人からのパフォーマンスやビデオ鑑賞を行いました。日本人からのパフォーマンスは福笑いをしました。キャンプ期間が中国の旧正月に近く、日本のお正月の文化を伝えられたらいいなと思い、福笑いにしました。村人はすごく喜んでくれて成功しました。



➤ランタン、春聯作り

中国の旧正月ではランタンを灯す風習があるらしく、そのランタンを村人と一緒に作りプレゼントしました。春聯も旧正月の風習で写真のような赤い紙を玄関などに張ります。



➤総括

今回 tea party などは成功したものの、中国人との連携がうまくいかずに納得できないものもありました。EL 内で仕事を分けすぎフォローできなかったのが原因であると思われます。しかしキャンパーと村人を楽しませることはできたと思います。

HL ハウスワークリーダー (しばた〜)

<仕事内容>

- *ホームビジットの活動の管理
- *キャンパーへの村人との交流促進
- *日本人企画の年賀状の管理

<総括>

ホームビジットでは、村人とみんな交流できていたので良かったです。
しかし、質問を広東語で覚えて村人と直接会話する企画は、準備期間が短く、みんなが十分に覚えることができなかつたので中止になってしまいました。
キャンプ前のチャイニーズとのやり取りが重要だと改めて感じました。

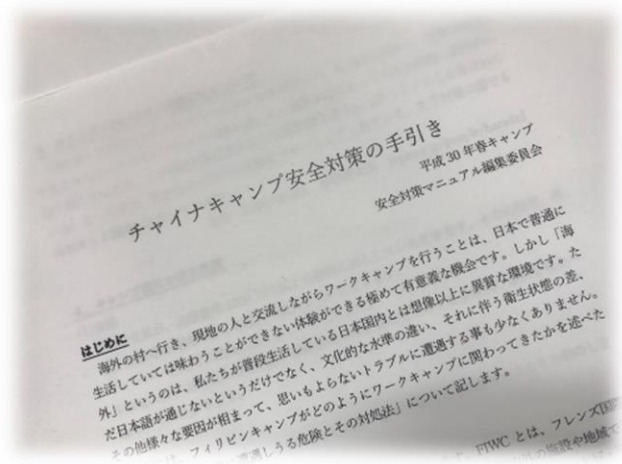
SP セキュリティーポリス (まさみ)

<仕事内容>

- *キャンプ前に安全管理者ミーティングに出席し、安全対策の手引きを作成

<総括>

*様々な状況におけるリスクを洗い流すことができたため、今までよりも前もって準備をしてキャンプに臨むことができました。
*初めての試みだったため、探り探りの作業となり、かなり時間がかかりました。また、完璧と言えるものにはならなかつたため引き続き改定して行く必要があります。



保険・会計

保険について

当初、加入する予定だった保険が保険料の支払いの問題（※1）で FIWC 九州の基準に満たなくなることが判明したため、保険料の支払いがコンビニで可能な [AIG 損保の海外旅行保険](#) に加入することにしました。

※1 FIWC 九州の基準を満たすプランに加入するためには、加入者と同名義のクレジットカードで支払う必要がありましたが、キャンパーの多くが自分のクレジットカードを所有していなかったため、加入することができませんでした。

プラン	
シンプルプラン	
補償内容	
傷害死亡	1,000万円
傷害後遺障害	30万円～1,000万円
疾病死亡	500万円
治療・救援費用	2,000万円 (疾病応急治療・救援費用300万円限度)
緊急歯科治療費用	10万円
個人賠償責任	1億円
携行品	20万円
旅行事故緊急費用	5万円
保険料	
12,310円	

会計について

<概要>

会計は個人会計と全体会計に分かれていて、個人会計はキャンパーが各自で管理し、娯楽やお土産に使います。全体会計は係が徴収して管理し、キャンプ費や交通費などに使います。

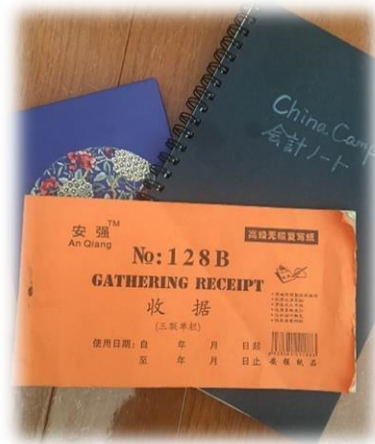
<領収書>

今回のキャンプから全体会計の支払いの領収書をもらうことになりました。

<換金>

今回は乗り換え先の大連空港で換金しました。

100000円 → 5477.20円



全体会計収支

※すべて1人分の金額です。(小数点以下切り下げ)

〔日本〕

航空券(往復)	54700 円
海外保険費	約 12000 円
日本人企画準備費	約 1000 円
合計	67700 円



〔中国〕

※換金した日のレートで換算。1元=18.25円

交通費	71 元	1295 円
宿泊費(JIA オフィス)	15 元	273 円
食費(2日分)	61 元	1113 円
儒洞キャンプ費	328 元	5986 円
高明ビジット費	131 元	2390 円
共有ケータイ費	6 元	109 円
合計	612 元	11166 円

〔日本〕 + 〔中国〕 = 78866 円

個人会計は1人 500 元(およそ 9000 円)だったので、
今回のキャンプにかかったお金は1人当たり 90000 円ほどでした。

他己紹介

平井侑貴

彼女は「痩せて帰ってくる!!」そう宣言し日本を旅立った。しかし中国に到着すると目にもとまらぬ速さで食べ物を完食する姿はまさにフードファイター。当初の目標である痩せることを達成できたかは永遠の謎である（たぶんできてない）。今回GLとフードファイターという二つの役割を全うしてくれた平井侑貴に拍手を送りたい!!

【by ゆうた】



稲原佑太



キャンパー1のムードメーカーゆうた!

キャンパー、村人、み～んなから愛されてたね（笑）
tea partyではお姫様役を演じ、チャイニーズに広東語の発音のダメ出しをビシバシ受けながらもなんとか演技切りました!!

日本から持っていったチェキは大人気で、村人からもとっても喜ばれていましたよ～（^^）☆

「次」のキャンプにも期待してます。。!?!?!?
（笑）

※この写真の可愛さはカラーじゃないと伝わらないかも!!見たい方はキャンパーまで!（笑）

【by まさみ】

洲崎裕也

高身長、塩がおイケメンであるうーや！KP として料理も完璧にこなしてしまいます。そんな彼にキャンパーもメロメロ！それだけでなく、独自の視点でアイデアを出してくれて本当に頼りになりました！そんな彼にも弱点が！それは英語！！文法めちゃくちゃなしゃべり、とても面白かった！！また、一緒にキャンプしたいな～！

【by しばた～】



柴田真人

中国でのシバターは日本でのしばた～とはひとあじ違う。中国でシバターは女子にモテるモテる。写真左のようなワイルドな表情を見せるのである。もうパパとは呼ばせない！！そんなシバターは前回、自他ともに認めるキャンプのトラブルメーカーであったが、今回は大きな問題を起こすこともなく、HL や会計としてもしっかりと任務を遂行してくれた。中国のあの娘と進展あったらリーダーにしっかり報告してね(^ ▽ ^)♡

【by ゆうき】

永尾昌美

まさみのイメージを一言でいうとお姉ちゃんである。いつも周りが見えていて困ったときは助けてくれるのです。私は英語が全く話せないので何度まさみに頼ったことか。今年は同じ国内係なので困ったときはまさみを頼らせてもらいます。

【by ゆうや】



感想

平井 侑貴

今回ワークキャンプを行った村は儒洞村。儒洞村でワークキャンプが行われるのは二回目で、私が今回この村を訪れるのも二回目だった。

村に着いたとき、村人が私を指さして嬉しそうにしているのを見て、いきなりテンション上がった。村人たちが私のこと覚えてくれてることが本当にうれしくて、私たちの到着を心待ちにしていたというのがすごく伝わってきてあったかい気持ちになった。村に着くまで、疲れてずっと寝てたけど、村に着いた瞬間、疲れなんて吹っ飛んだ。わくわくうれしい楽しい気持ちと同時に、村の様子とか匂いとかが前回の夏のキャンプを思い出させて、懐かしくなって夏キャンプをともにしたちかさんやチャイニーズキャンパーにすごく会いたくなった。



今回は村人と筆談したりポーカーしたりいろいろなコミュニケーション方法を試してみた。キャンプのプロジェクトの中では、チャイニーズに村人が話していることを英語に訳してもらおうという状況になることが多いのだが、自由な時間で筆談したりしているときは村人とダイレクトにコミュニケーションがとれる。私はそういう時間が大好きだ。おじいちゃんおばあちゃんがかわいくて優しくてかわいくてかわいくてなごむ。ほっこりする、安心する。村人と過ごす時間はそういう時間だった。村人のおじいちゃんがキャンパーたちの夕食を作ってくれるということになって私はその手伝いをするようになった。おじいちゃんは私に広東語で指示をだすのだが、それが何を言ってるのか不思議とよくわかって嬉しかった。言葉がわからなくても村人と通じ合える、料理しててすごく楽しかったし、できた料理はとてもおいしかった。

二回目の儒洞村でのワークキャンプということもあり、村人たちはよりキャンパーたちに心を開いてくれ、より多くのことを語ってくれた。だから村や村人たちのことをより多く知れば知るほど村に愛着がわいてきた。このキャンプの中で、涙を流す場面が二度あった。一度目は、まさみからヒストリーホームビジットの話を聞いた時だった。ヒストリーホームビジットでは、村人からハンセン病についての経験談などを聞くプロジェクトなの

だが、もちろん自分の辛かった過去を話したがる村人もいる。まさみが話を聞いたおばあちゃんも話すのがとても辛そうであまり多くはかたてくれなかったそうだ。それでもその話をする姿や表情からその経験の辛さが感じられ、まさみとまさみと共に話を聞いていたチャイニーズキャンパーはそのおばあちゃんが話している間手を握っていたそうだ。そのおばあちゃんは「自分のことが怖くないのか？」とまさみたちに聞いたらしい、私はそれを聞いたとき、はっとつらい気持ちになったが、そのあとの話を聞いて涙があふれた。チャイニーズキャンパーはおばあちゃんがそう尋ねたとき、そのおばあちゃんの手甲にキスをしたらしい。その行動は、きっと何かの言葉よりも、彼が村人たちを怖がるわけがなしこと、彼がおばあちゃんのことを大好きだということをしっかりとおばあちゃんに伝えたいと思う。そしてどんなにおばあちゃんは心がやすらいだことだろう。二度目は、村を出ていく時だった。私たちが村を去るとき村人たちは泣いていた。それは前回にはない光景だった。とても恥ずかしがりやで前回のキャンプでは私たちが何を言っても、何かしようと誘っても拒否するおじいちゃんがいる、なかなかそのおじいちゃんと打ち解けることにみんな苦労していたのだが、だんだんと心を開いてくれて笑顔を見せてくれるようになってきた心優しいおじいちゃん、そのおじいちゃんが号泣しているのをみたら、もうもう涙が止まらなかった。村人が手で私の涙を「泣くな、泣くな」と自分が泣きながら拭いてくれた。きっとこのキャンプを通して村人の心になにか残せたんだと私は思う。

永尾 昌美

2回目の中国。初めてのワークキャンプ。たくさん伝えたい事はあるのに、言葉にするのがすごく難しくて、キャンプが終わって、誰かに話す度、うまく伝えられないもどかしさを感じた。こんなにもチャイナキャンプの素晴らしさを伝えたいのに、それができない自分が悔しかった。一言で言ってしまうとただ「楽しかった」の一言なんだけど、その中にはたくさんの感情が含まれてて、でもどんな言葉を使って表現しても、その時の気持ちが安っぽく伝わってしまうような気がした。書きたい事はたくさんあるけれど、その中でも自分の中で印象に残っている出来事について書いていきたいと思う。

儒洞村でのヒストリーホームビジットの時、私はチャイニーズと一緒に梁姨（リャンイー：梁おばちゃんという意味）のところに行った。梁姨はハンサムな旦那さんを持ち、ピンク色が大好きで、私たちにたくさんの野菜をくれる優しく可愛い



人だ。梁姨はあんまり自分の過去について話そうとしない人だった。そして今回も“言葉では”あまり多くは語ってくれなかった。言葉では、だ。他愛もない話からハンセン病に関する話になった時、梁姨の表情がガラッと変わった。さっきまで笑顔だったのに、口角が下がって、目の色もなんだか暗くなった。質問すると、少し頭を下げて、帽子をかぶっていたからどんな目をしているのかは分からなかったけど、唇をぐっと噛んだり、涙をこらえているのか口元が震えたりしていた。あの時の梁姨の表情は鮮明に覚えている。その時私とチャイニーズは梁姨に少しでも私たちがそばにいるし、私たちは梁姨のことが大好きだよと伝えたくて手を強く握った。手を握ると、梁姨も握り返してくれるんだけど、それと同時に、梁姨の悲しい気持ちも伝わってくるような気がした。梁姨はいくつかの質問には時間をかけながらも、言葉を振り絞るように、私たちに伝えてくれた。私は、チャイニーズと梁姨が何を話しているのかは分からないんだけど、その時の雰囲気、梁姨の表情、手から伝わる緊張、いろんなことを感じて、途中から涙が止まらなかった。そして、梁姨が何かをチャイニーズに伝えた後、突然チャイニーズが梁姨の手の甲にキスをした。どうしたのか聞くと、梁姨は「私のことが怖くないのかい」と聞いてきたそうだ。そんなわけがないのに。普段はそんな素振り見せないけど心の中で自分を恐れているのかを気にしながら生きているなんて、この病気は完治してもなお、村人たちを苦しめているのかと思うと、怒り悔しさ悲しみ...いろんな感情が押し寄せてきて、私たちの愛を伝えたくて、梁姨の手をもっと強く握った。この時改めて、言語って本当に問題じゃないなと感じた。

これを読んで、村人が話したがらないのに聞き続けるのは良くないんじゃないかと思う人もいるだろう。もちろん、強いるのは良くないしするべきではない。(今回私たちは無理やり答えさせるような事はもちろんしていない。) だけど、私は最後の梁姨の問いかけから分かるように、村人たちは村人自身に否定的な感情を抱いている。私は、このようなヒストリーホームビジットを通してその村人が村人自身に抱く差別感情をなくし、より自己肯定感を高めるのに有効な手段だと思う。

そして最後に、私たちが村を離れる時のことだ。みんなとお別れを言っている時、一人のじいちゃんが涙ぐんでいるように見えた。「じいちゃんもしかして泣いてくれてるのかな。。。」と思った。そして、梁姨にお別れを言いに行くと、梁姨は泣いていた。周りを見ると村人もキャンパーも泣いていた。さっき涙ぐんでいるように見えたじいちゃんは子供のように大粒の涙を流しながら泣いていた。そんな村人たちを見て「絶対にもう一度この村に帰ってこなきゃいけない」と強く思った。じいちゃん、ばあちゃん、絶対また会いに行くからね～！☺

柴田 真人

今回は夏に続いて二回目のキャンプでした。前回のキャンプでは僕はある目標を立てていました。それは、村人たちに自分のことを覚えてもらうことでした。そのために、得意のけん玉を披露したり、大学で習った中国語を使って村人と筆談をしたり、ネームカードを見せながら私の名前は柴田



真人です！ってチャイニーズキャンパーに教えてもらった広東語で言ってみたり、とにかくいろいろやってみました。その行動の甲斐もあってか、仲良くなったおじいちゃんおばあちゃんに覚えてもらうことに成功したのです。キャンプが終わって日本に帰ってきてから数か月後、村を訪れていたチャイニーズキャンパーからしばた〜のこと村人がおぼえていたよ！って連絡が来たときにはとてもうれしかったです。しかし、そこで私は前回のキャンプのことを、写真を見ながら思い返してみると、あれ、あのおじいちゃんの名前はなんだっけ、あれ、このおばあちゃんはどうな名前だったっけ、、、、、、とてつもないショックを受けました。あれほど一緒に過ごしてなかよくなったはずの村人の名前をほとんど覚えていなかったのです。ああ、大切なことを見失っていたんだなとそのとき強く痛感しました。僕の思いは一方通行だったんだと。キャッチボールではなくドッジボールになっていたんだと。僕はとても後悔しました。そしてまた次のキャンプに行き、もっと村人とつながるんだと決心しました。今回のキャンプでこの目標は果たせたんじゃないかと今感じています。今回は村人の過去や好きなこと、畑で何を育てているのかなどなど、たくさん知ることができました。陈罗（チェンルー）おじいちゃんは日本語の勉強をしていました。僕が彼に日本語を、彼が僕に広東語を教えあった時間はとても楽しかったです。タバコが好きな钟（チョン）おじいちゃんとはタバココミュニケーションをしました。僕の初たばこは中国でした。（笑）前回とは比べ物にならないくらい村人との交流が楽しくて、彼らが本当の親戚のように感じています。もう他人ではなくなりました。言葉の違い、国の違い、ハンセン病、そんなものたちは関係ありません。確かな絆で結ばれているとぼくは思います。最終日、お昼ご飯を食べ、迎えに来たバスに荷物を積み込み終え、最後の挨拶をしようとバスから降りてみるとそこには顔を赤らめて目に涙を浮かべる村人とキャンパーみんなの姿が広がっていました。そのとき、僕は繋がりというものをとても強く感じました。出会って半年、一緒に過ごした時間は約3週間、それでも確かにそこにそれはありました。前回のキャンプでは、イベントになかなか参加してくれず心残りだった、腰の曲がったシャイな许木运（シュームーユン）おじいちゃんの真っ赤な顔に流れる涙は忘れられません。僕は泣いているおじいちゃんのそばで、絶対にまた戻ってくるから泣かないで

と日本語でこたえました。ボランティアするために来るのではなく、彼らに会うためにこの場所に戻ってきたい、こんな気持ちであふれています。彼らに残された時間は短いのかもしれません。だけど、たとえそうだとしても、少しでも彼らの人生に寄り添って微笑んでいられたらと切に願います。最後に、このキャンプを共に作った JIA のキャンパーのみんな、日本人のリーダーとして引っ張って行ってくれたゆうき、いつもふざけて楽しませてくれたゆうた、一人だけ初めての村だったけど皆と仲良くなっていつも明るかったまさみ、おいしい料理を作って食事面でサポートしてくれたゆうや、そして儒洞村、高明村の村人たちに感謝を伝えたいです。

稲原 佑太

今回のキャンプは自分にとって二回目のチャイナキャンプであった。そして一回目のキャンプで訪れた村に再び行った。最初は早くじいちゃん、ばあちゃんに会いたいなあと思っていたけど、村が近づいていくごとに自分たちのことを覚えてくれているか心配になりました。そんな心配を胸に村に到着するとじいちゃんたちがこちらを指さして何か言ってきました。言葉は理解できないけれど、雰囲気は何を言っているのか理解できました。自分たちのことを覚えてくれていたのです。荷物を置き村人みんなに挨拶するために村を歩いていると自分が一番仲の良かった梁じいちゃんという村人が抱きついてきたんです。その時も何か言っていたのですが、たぶん「久しぶり！ようこそ！」って言ってくれていたのだと思います。自分はその時に、ああ、村に帰ってきたんだなって感じました。村人は相変わらず元気で、喧嘩していたり、キャンパーを孫のようにもてなしてくれたり、変わらない姿を見て安心しました。



ある日私は梁じいちゃんの家を訪れて人生相談にのってもらいました。中国に何しに行ってるんだよって話ですが、ある人から村人に相談してみるといいアドバイスくれるという話を聞いたので、じいちゃんたちが何かいいアドバイスをくれないうらいの気持ちで相談しました。まあ何を相談したかという「ずっと彼女がいないんだけど、どうしたら彼女できるかな？」と相談しました。(笑)するとじいちゃんは、「君はまだ若いから待っていればできるよ。焦らないでいい人見つけて。あと君はイケメンだからすぐできるよ。」と言われました。イケメンかどうかはさておき、とても普通のことだけど、何かそのうちできるんじゃないかと思えてきました。(笑)しかし未だに彼女はいません。残念です。

それともう一つびっくりした話があります。村に到着し、あるばあちゃんの家を訪れた時、自分の名前を覚えてくれていたんです。それになぜ驚いたかという、前回のキャン

プでそのばあちゃんとはあまり交流ができていなかったのが覚えていることに驚いたのです。自分だけでなく他の日本人キャンパーの名前も覚えてくれていたのがさらにビックリしました。私たち日本人が訪れることによって非日常的なことが起きて、村人が喜んでくれていると感じました。村人はよく、また来てくれてありがとうね、と言ってくれました。それだけでも私は中国に行ってよかったなと思いました。

そして私はこういった会話や自分一人でじいちゃん達の家遊びに遊びに行って筆談したり、お菓子やお茶飲みながら一緒に時間を過ごしたりするのがすごく楽しかったです。言葉が伝わらない中、いろんな方法でコミュニケーションを取り、たまに、今このこと言ったんだろうなとか自分がいま言ったこと通じたなって思うことがありました。そのときはすごく嬉しいかったです。

最後に、私は今回のキャンプで「人の温かさ」というものをすごく感じました。村人だけでなくキャンパーも温かさを感じました。村から帰ったとき熱を出してしまいました。そのとき、キャンパーみんなが心配してくれて、看病してくれました。本当にありがとう。村人は、たった七日間しか滞在していなかったのに私たちが村を出る際に泣いてくれたんです。去年の初めて参加したキャンプでは笑顔でおわかれしたのに今回はほとんどの村人が涙を流していました。それを見たとき自然と涙が流れてきました。全く泣くつもりがなかったのに勝手に涙が流れてきました。こんな経験したことがなかったから驚きました。別れが悲しいだけでなく、心を動かされたからだと思います。村人たちはこれまで様々な差別を受け、多くの人にひどいことをされてきたのに、こんなにもキャンパーのこと思ってくれていて、優しくしてくれたからです。こんなにも人のやさしさや温かさに溢れたキャンプに参加することができ心の底からうれしく思います。本当にありがとう！！

洲崎 裕也

今回チャイナは二度目ということもあり、一度目ではわからない二度目だからこそ分かることがあった。

そしてチャイナキャンパーが毎回苦勞するのは新一年生にチャイナの魅力を伝えるのが難しいキャンプであることであることだ。そこで私はチャイナキャンプが私にどのような経験をもたらしたかを伝えたいと思う。

まず初めに二度目だから分かることは、二度目に儒洞村を訪れたほうが初めて儒洞村訪れた時より村人との新密度があきらかに違うことだ。

私がそれを身を持って感じた場面は村に到着して村の地に降り立った瞬間ある村人が私を指さして、中国語で喋りかけてきたのである。もちろん私は何を言ってるかわからなかった。そこで JIA の学生に村人が何を言っているか尋ねると、彼は

「君をおぼえているよ。」とっていたそう。

私は正直驚いた。なぜなら、私が夏に儒洞村を訪れた時に村に適應するのに精一杯のキャ

ンプであったからだ。だから村人に何の影響も残せなかったから私のことを覚えているなんて思いもしなかった。それなのに村人はそんな自分を覚えていてくれて思わず感動してその村人とハグをした。この出来事がきっかけで自分のチャイナキャンプに対する意識に変化が生まれた。



それは、「村人のために自分が今何ができるかを予測し、どう行動すべきなのか」を考える。簡潔にいうと人のために何ができるかを考える。ということだ。

この体験が私にもたらしたチャイナでの経験である。

この出来事が起こる前までは村人に短い時間でもいいから非日常を味わってほしいと考えていた。というのも、村人はほぼ毎日村の中で同じ生活の繰り返しで活気がな

かったからである。そこで我々が村に来て少しの間でも村人の生活に楽しみが増えれば、村人の生活の刺戟になると思っていた。だが村人に非日常的な体験をしてもらうことが目的だったらそこで自分の目的が完結してしまうことになる。私は主観的に非日常を与えられたと想着いてもこれは自己満足で終わってしまいそうで、本当に村人のためになっているのだろうかと思った。

だから非日常を味わってほしいという気持ちプラス「村人のために何ができるかを考える」ことによって、自己満足になることもなくなるのではないかと思った。

そしてこのチャイナキャンプが私にどのような経験をもたらしたかという、人とのコミュニケーションの向上である。どういうことかという、私は中学、高校と基本的に人と関わらずに生きてきた。話すことに必要性を感じず誰とも接さず極力人との交流を避けるようにしていた。今まで人と関わってこなかったせいか、自分に自信がなく人の眼を見て話すことが出来なかった。だが儒洞村の村人と接することで、人と関わることの楽しさ、村人の心の暖かさに触れて少しずつだが人と関わることにして変化している部分があると感じた。

そして最後に一つ言いたいことがある。

チャイナキャンプは毎回キャンパーが集まりにくく、インフラ整備などのフィリピンやネパールにキャンパーが流れがちである。チャイナだけ「交流」がメインのキャンプで残りの二つとは違い、目に見える形になるものがないため魅力が伝わりにくいのもかもしれない。だが二つのキャンプにも共通して言えるのは、インフラを行うにしても結局は村人のことを思い村人のために何を作るか、どういうふうにワークを行うかを考えていると思う。

つまり誰かを思って考えるという行為はインフラ整備のキャンプだろうが、交流のキャンプだろうがどのキャンプもやっていることなのである。だからキャンプごとに活動した結果が異なっているだけでどのキャンプも本質は「誰かを思って考える」ということだと思

う。

だから私はどのキャンプに行ってもこの本質だけは経験できるものだと思っている。

【みんなが選ぶベストショット集～！！】



←
髪型のおかしい友達との再会
(前回のキャンパーです！)



↑深夜1:00 大連空港を追い出されるという事件発生。不安、疲れ、全ての限界の一線を超えてしまった瞬間。

↓フードファイターの昼寝



中国で接待をしてきました(笑) ↑

『なんで見えないの～???』 →
彼女の間違いにあなたは気づけますか？



みんなお見送りありがと～！
↓我愛你～♡



←なんかよくわらんけど、
楽しそう!!!!!!
ステキ!!!!!!

→
じいちゃんの部屋に
飾ってもらいました♪



We never ever forget their
tears.

It is said that we are the last
generation that can listen to
their stories.

So, it is our mission to visit
them and spend nice time with

